

「日本科学オリンピック委員会」 の設立について

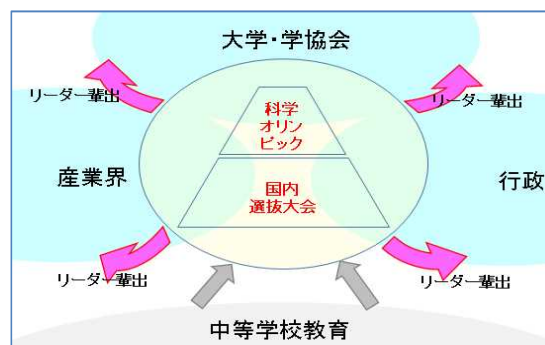
日本科学オリンピック委員会準備協議会

1

科学オリンピック活動のインパクト

- 高レベルの課題に挑戦する機会を通して、科学への関心と意欲を更に高める
- 日本中から集まった生徒がネットワークを形成し、切磋琢磨によって学術を深める
- 国際大会への派遣 = 世界に羽ばたくグローバル人材の育成

優れた能力（「出る杭」）を伸ばし、「科学」の面白さと重要性を涵養し「科学技術立国日本」を支える人材を育成することにより、質の高い持続的社會を構想する。→ 産学官など社会全体の協働が必要



2

教科の枠を超えて

従来より各教科で有機的なネットワーク
(大学、高校、学会、企業、地域等)を形成し、
国際化社会におけるリーディング人材の育成を推進

来たる国際大会の日本開催に時宜を合わせて、
日本独自のモデルとして教科の枠を超えた連携を推進

産学官を含む社会の協働ネットワークを一層拡大し、
科学オリンピックの更なる自立的・継続的發展を
可能とする環境を構築

3

日本科学オリンピック委員会

- 各大会の運営機関で共同事業体を形成



4

これまでの経緯

平成28年5月

検討母体として、日本科学オリンピック準備協議会を設置。
5月20日「科学オリンピック推進会議（第1回）」にて、準備協議会を代表してNPO物理オリンピック日本委員会北原理事長から『**教科、産学官の枠を超えた協働**』を目指して、「**日本科学オリンピック委員会**」を**設立すること**表明。以後、運営規約等について検討。

平成28年9月

委員会エンブレムのデザイン案について、エンブレムコンテストを主に全国の中高生を対象として実施し、デザイン決定。

平成29年4月

「日本科学オリンピック委員会」発足（予定）。



科学オリンピック

5

活動内容

1. 科学技術の将来を見据えた異分野協働と産学官連携によるオールジャパンの科学技術人材育成を推進する

2. 7教科一体となった科学オリンピック活動の普及・広報を行い、協賛・支援の輪を広げる（ブランド・訴求力の向上）

6

今後の予定

- H29年度より本格的な広報活動を開始
- H29年度中に日本科学オリンピック委員会発足イベントを予定
- 具体的なパートナーシップメニューを、日本科学オリンピック委員会の特設サイト (※) にて順次ご案内予定



7

日本科学オリンピック委員会

- 公益財団法人数学オリンピック財団
- 公益社団法人日本化学会（化学グランプリ・オリンピック委員会）
- 公益財団法人日本科学技術振興財団（国際生物学オリンピック日本委員会）
- 特定非営利活動法人物理オリンピック日本委員会
- 特定非営利活動法人情報オリンピック日本委員会
- 特定非営利活動法人地学オリンピック日本委員会
- 公益社団法人日本地理学会（国際地理オリンピック日本委員会）

8